秩父宮ラグビー場の移転整備

現在の秩父宮ラグビー場は施設の老朽化が著しく、ユニバーサルデザインの導入や多様化するニーズへの対応も求められていることから、東京都の地区計画や指針に基づく「神宮外苑地区第一種市街地再開発事業」の枠組みにおいて移転整備することとしました。

新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業

新しい秩父宮ラグビー場の整備は、**「スポーツの力」で未来を育てるスタジアム**をビジョンに掲げ、以下の４つのコンセプトの実現を図ることを目的として進めています。

コンセプト	1 我が国のラグビーを象徴するスタジアム	2 様々なシーンに対応できる誰もが心地よいスタジアム	3 持続可能性に配慮した未来を紡ぐスタジアム	4 スポーツの多様な価値を発信するスタジアム

本事業の主な特色

PFI方式（BT＋コンセッション）

本事業の実施に当たっては、民間経営による収益性の向上によるJSCの財政負担の軽減を図る観点から、PFI方式（BT＋コンセッション）を導入しました。これにより、新秩父宮ラグビー場（仮称）は、民間事業者が施設の設計・建設を行った後、30年間の運営を行うこととなります。なお、BT＋コンセッションによる調達は、国の施設としては初めての事例となります。



全天候型（屋根付き）

全天候型とすることは、ラグビーをプレーする人、観る人、支える人、集まる人にとって快適な施設となるほか、他のスポーツ競技や各種イベントなど多様な用途での活用を図る観点からも有意義であると考えています。特に、利便性においては、①天候の影響を受けることなく使用できること、②音漏れを防ぎ、近隣への影響を軽減できること、③災害時の一時滞在施設となりうることなどのメリットがあります。

人工芝

フィールドは、ワールドラグビー推奨の人工芝とし、常に良好な状態で競技できる環境を整えます。また、人工芝を用いることにより、稼働率の向上はもとより、ラグビー以外の多様な用途での利活用も促進されることが期待されます。

スポーツの多様な価値の発信

スタジアム内に文化交流施設としてスポーツミュージアムを設置するなど、スポーツに関する深い学びを支援し、知的な刺激や楽しみを分かち合う機会を提供します。また、心身の健康の保持増進に加え、スポーツ・インテグリティや国際交流による相互理解の推進などスポーツを通して得られる多様な価値を広く国民に発信し、スタジアムに足を運ぶことで「スポーツの力」、スポーツの可能性を感じることができるスタジアムを目指します。

新秩父宮ラグビー場（仮称）施設概要		
座席数	階数	高さ
約15,000席	地上7階、地下1階	約46m



※イメージ図・記載内容は、実際の設計・施工段階で変更となる可能性があります。

「神宮外苑地区まちづくり」と「秩父宮ラグビー場の移転整備」の経緯



神宮外苑地区は、東京都が計画策定した四大スポーツクラスターの1つに位置づけられ、東京2020大会の招致・開催を契機に国立競技場の建替等が行われてきました。秩父宮ラグビー場を含む区域については、現在、東京都のまちづくり指針に基づき、スポーツ競技の継続性に配慮した連鎖的なスポーツ施設の整備計画が進められています（上図は再開発後の完成予想イメージ）。
この間、令和元年にはラグビーワールドカップ2019日本大会が開催され、国民からの大声援を受けて快進撃を続けた日本代表が初のベスト8進出を果たすなど、人々に大きな夢や感動を与えた大会となりました。
秩父宮ラグビー場は、老朽化とともに、ユニバーサルデザインの導入や多様化するニーズへの対応が求められるなか、スポーツ庁主催の「ラグビーの振興に関する関係者会議」において、ワールドラグビー基準の試合環境が用意できる、全天候型ラグビー専用スタジアムの建設に関する（公財）日本ラグビーフットボール協会の発言・要望などを踏まえ、「ラグビーをプレーする人、観る人、支える人、集まる人にとって快適な施設とすること」、「他のスポーツ競技や各種イベントなど様々な用途でも快適に使用できるように全天候型のラグビー場とし、BT＋コンセッション方式のPFI事業により整備すること」などとする「秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方について」が示されました。JSCでは、この基本的考え方に沿って、新しい秩父宮ラグビー場を整備することとしました。

神宮外苑地区まちづくりと秩父宮ラグビー場移転整備に関する主な経緯	
平成23年12月	東京都が「2020年の東京」計画を策定 ・神宮外苑地区を四大スポーツクラスターの1つに位置付ける
平成25年6月	東京都が「東京都市計画神宮外苑地区地区計画」を決定
平成28年7月	東京都がJSCを含む権利者と「神宮外苑地区まちづくり基本計画の検討に関する合意書」を締結 ・再整備構想としてスポーツ施設を移転整備する案が示される
平成30年11月	東京都が「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を策定
令和元年9～11月	ラグビーワールドカップ2019日本大会開催
令和3年1月	ラグビーの振興に関する関係者会議（第3回）において、「秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方について」が示される
令和3年6月	JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画」を策定
令和3年7月	JSCを含む関係権利者が「東京都市計画神宮外苑地区再開発等促進区を定める地区計画企画提案書」を提出
令和3年9月	JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の実施方針を公表
令和4年1月	JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の民間事業者を公募開始
令和4年3月	東京都が「東京都市計画神宮外苑地区地区計画」の変更を決定
令和4年11月	JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」契約締結
令和5年2月	東京都が「（仮称）神宮外苑地区第一種市街地再開発事業」を施行認可

神宮外苑地区まちづくりの取組

神宮外苑地区まちづくりでは、以下の課題解決に取り組んでいきます。

大規模スポーツ施設の老朽化

老朽化した日本を代表するスポーツ施設を競技開催の継続性に配慮しながら連鎖的に更新し、広くスポーツに親しめる世界に誇れるスポーツクラスターを形成

広場等のオープンスペースの不足

新たな100年に向けて、4列のいちょう並木等歴史ある景観を残しながら、外苑の魅力であるみどりやオープンスペースを増大

地区内の回遊性やイベント開催時の歩行空間の不足

歩行者ネットワークを強化し、イベント時も含め多様な来街者が安全に回遊して楽しめる、東京を代表する新たな複合型のまちづくりを推進



みどりを増やします。



安全・安心なスポーツ環境を形成します。



地域を守る防災拠点をめざします。

神宮外苑地区まちづくりプロジェクトサイト　https://www.jingugaienmachidukuri.jp/